

例 言

- 1 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所（当時）と大韓民国国立文化財研究所は、2005年12月20日に、「日本の古代都城並びに韓国古代王京の形成と発展に関する共同研究」という題名で、日韓共同研究合意書を取り交わした。本書は、2007年度までの共同研究の成果を論文集として取りまとめたものである。
- 2 本共同研究は、その内容として、
 - (1) 日韓都城制の比較研究と遺構の研究
 - (2) 都城・寺院における出土遺物の研究
 - (3) 古建築の構法・技法に関する復原的研究
 - (4) 遺跡の整備・復元手法に関する研究の4項目をあげる。本書では、それぞれの課題に則した論考12篇を収録した。
- 3 本論文集は、日韓同時出版とし、韓国語版は『韓日文化財論集Ⅰ』として、大韓民国国立文化財研究所より出版されている。本書とあわせてお読みいただきたい。
- 4 韓国語論文の翻訳にあたっては、諫早直人氏・松永悦枝氏（大韓民国慶北大学校大学院）の多大なご協力をいただいた。翻訳に際し、原文に忠実に訳すことを心がけたが、一部意識したところがある。誤解および誤訳があれば編集者の責に帰するものである。
- 5 本書に使用した写真・図面の掲載にあたり、以下の関係各機関よりご高配を得た。
明日香村教育委員会、滋賀県教育委員会、新薬師寺、大韓民国国立文化財研究所、大韓民国国立加耶文化財研究所、唐招提寺、奈良県教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所、奈良市写真美術館、法隆寺（五十音順・敬称略）
- 6 本書の編集は、都城発掘調査部が担当し、巽淳一郎・山崎信二の指導のもと、次山淳・高田貫太・小田裕樹・石村智（企画調整部国際遺跡研究室）がおこなった。